研究成果一覧[1]

【2022 年度】　　＊下線は研究協力者（当該年度）

本郷正武，2023,「薬害問題の構築プロセス」本郷正武・佐藤哲彦編『薬害とはなにか――新しい薬害の社会学』ミネルヴァ書房，pp. 22-37.

松枝亜希子，2022，「サリドマイド訴訟への市民運動による支援と原告団との見解の相違について」『大原社会問題研究所雑誌』769: pp. 40-56.

佐藤哲彦，2023,「薬害の定義と薬害概念」本郷正武・佐藤哲彦編『薬害とはなにか――新しい薬害の社会学』ミネルヴァ書房，pp. 3-21.

矢﨑千華，2023,「薬害年表」本郷正武・佐藤哲彦編『薬害とはなにか――新しい薬害の社会学』ミネルヴァ書房，pp. 271-277.

【2023 年度】

本郷正武，2023,「埋もれた薬害――クロロキン薬害の「不在」を考える」第 74 回関西社会学会大会，2023 年 5 月 14 日，京都先端科学大学.

Sato, Akihiko, 2023, “Between Promoter and Obstructionist of Vaccination: Vaccine-induced sufferings and anti-vaccination discourse in Japan,” Session 379, Language on Health Under COVID-19 Pandemic. Part III, June 30th, 2023, *ISA World Congress of Sociology*, Melbourne, Australia.

佐藤哲彦，2023,「反ワクチン論とワクチン薬害――陰謀理論時代における薬害言説の困難をめぐる考察」第 96 回日本社会学会大会テーマセッション「新しい薬害」の外延を探る，2023 年 10 月 18 日，立正大学.

【2024 年度】

本郷正武，2024,「プレ薬害とポスト薬害を夢想する」『ソシオロジ』69(1): pp. 23-29.

Hongo, Masatake, 2024, “The Three Factors That Triggered the Establishment of the Japanese Concept of Yakugai,” International Sociological Association, RC25 meetings at the Maria Grzegorzewska University in Warsaw (Poland), September 19th.

Sato, Akihiko, 2024, “Vaccine Discourse and Vaccine-Induced Sufferings: Discourse Analysis of the Promotion and Hesitation of Vaccination in Japan,” *Language, Discourse & Society*: 12(1): pp. 13-35.

[1] なお、これらはいずれも学術振興会による科研費研究（課題番号 20H01590 および 23H00892）との合同の成果である。

矢﨑千華，2025，「「薬害」としてのストマイ難聴――ストレプトマイシンの使用による健康被害に関する考察」『関東学院大学人文学会紀要』151: pp. 83-108.